



## Contents

- 02 イベントリポート1…「クレーン運転手」の記憶に触れる  
**造船所のシンボル、クレーン操縦の仕事**
- 04 イベントリポート2…底に下りる見学会も  
**日本に残る、近代遺産のドックたち**
- 06 連載 ドックのお話⑮  
**昔、ドックで働いていた方へインタビュー**
- 07 イベントリポート3…連携は新しいステップへ！  
**浦賀小学校の授業協力**
- 08 連載 うらが今昔⑮  
**「浦賀町と久里浜の併合問題」ほか**

### 浦賀ドックには

歴史的価値の高いレンガドックをはじめ、産業遺産が集積しています。

### レンガドック

レンガ造のドックは日本に2基しか存在しません。もう1つの川間ドックは現在ゲート（扉船）が開放されているためドライドックとしての形を残すものは、浦賀ドックが日本で唯一となります。

# 「クレーン運転手」の記憶に触れる—— 第58回レンガドック活用イベント「浦賀ドック座談会」 造船所のシンボル、クレーン操縦の仕事

2018年11月23日(金)開催

▼ 浦賀のクレーン。最盛期は大小10以上のクレーンが動いていた。



**職** 人の生の声を聞けることで毎回高い人気を誇るOB講演会ですが、今回は司会とOBらによる座談会形式で行いました。今回はトークテーマを「造船所のクレーン」とし、浦賀ドックでクレーンの運転をしていた住友重機械工業(株)のOB飯田恵一郎さんにお話しいただきました。さらに、追浜にある横須賀製造所で現在も設備管理の仕事をしている富田実さんにも来ていただき、浦賀ドックが動いていた当時と現在のクレーンとの違いなどについても教えていただきました。当日は市内外から多くの人に参加し、2人の話に耳を傾けました。



飯田恵一郎さん

昔から職人の間ではクレーンのことは「グレン」と呼んでいました。一度運転室に上がると、お昼以外はずっと中で作業をしていました。

クレーンのお仕事は工場の花形だと思います。運転室は皆さん大切にしていたのでしょうか。



山本詔一さん  
(司会)

みんなよく掃除して綺麗にしていました。運転室を土足禁止にしていた先輩もいましたからね。

運転室はとても高いところにありますが、そこまではどうやって上っていたのですか？



富田実さん

基本的に運転室まで伸びる階段を上っていきます。追浜の横須賀製造所にあるクレーンも、ほとんどはエレベーターがありません。昔はメンテナンスで油を差すために、運転席より高いところの上って行っていたようです。

それはとても大変ですね。高所恐怖症の方には難しいと思います。飯田さんは今はもう引退されていますが、今もう一度クレーンを運転するとしたら、すぐにできたりするのでしょうか。



今すぐでも動かせると思います。基本の操作は同じですし、先輩方から学んで、長年やってきた仕事ですからね。すっかり身に染みついています。

とても頼もしいですね。私たちから見ても浦賀ドックのクレーンと言うのはとても大切なシンボルでしたから、こうやって直に触れていた方の経験談は多くの人に知ってもらいたいと思います。



## 代表的な造船クレーンの種類

浦賀工場には船台・ドックともに様々なクレーンがあり、その大きいクレーンたちを運転することは職人の憧れでした。



### ジブクレーン

最も標準的な造船クレーン。1本の支柱で腕(ジブ)を支える。ジブを上下させることで回転半径を調整し、先端のワイヤーを巻上げることで荷物を吊る。

### ハンマーヘッドクレーン

塔型、鉗型とも。ジブクレーンの一種であるが、ジブが水平に固定されており上下させられない。名前の理由はその見た目がハンマーに似ているため。



### 門型クレーン

新しい造船所でよく使われるクレーン。ドックなどを跨ぐような形で設置される。現役の住友重機械横須賀製造所には1つで300tを持ち上げられるクレーンがあり、ゴライアス(巨人)クレーンとも呼ばれる。



横須賀製造所の門型クレーン。その中に見えるのはハンマーヘッドクレーン。

### 天井走行クレーン

工場建屋内の壁に設置されたガイドを走るクレーン。造船所以外の工場でもよく使われる。浦賀工場には大正時代に作られた天井クレーンが残っている。



### 横須賀製造所のクレーンのひみつ

横須賀製造所にある門型クレーンには「SUMITOMO よこすか」と書いてありますが、元々「よこすか」の字はなく、横須賀市政100周年記念の年に地元のPRをするために新しく書き直しました。1字あたり8×8mと大変大きい文字でよく目立つようになっています。



現在



工場が出来た当時

第57回レンガドック活用イベント

2018年10月27日(土) 開催

# 日本に残る、近代遺産のドックたち



浦賀のレンガドックが2019年に生誕から120年を迎えることを記念し、このイベントでは浦賀とともに日本の近代化を支えた造船所として、浦賀の近辺に存在するドックの写真を交えたパネル展示を開催しました。  
今回は①浦賀船渠1号ドック、②横浜船渠2号ドック、③横須賀ベース(米海軍基地)1号ドック、④川間ドックなどを中心に、今までのイベントで展示してこなかった写真を一挙に公開しました。

## パネル展示



①浦賀船渠1号ドック (1899年竣工)

いわゆるレンガドック。当委員会がイベントを開催するきっかけのドックであり、国内で唯一水が抜かれた状態のレンガ造ドック。なお

地元の人々が「浦賀ドック」と呼ぶときは、ここを含めた工場全体のことを指す。



▲見学後にスタッフから展示工具の説明を受ける参加者



②横浜船渠2号ドック(1888年竣工)

開国後の横浜に造られた、民営最古のドック。石造のため、壁面の見た目が浦賀とは大きく異なる。現在はドックヤードガーデンとして生まれ変わり、プロジェクト・マッピングなどの会場として使用される一大観光スポットに。



③横須賀海軍施設1号ドック(1871年竣工)

江戸時代に建造が始まった、極めて歴史の長いドック。元は旧日本海軍の工廠として使用されており、戦後は横須賀に駐留するアメリカ海軍基地の一部として活躍している。



## 知っていますか？もうひとつのレンガドック

④川間ドック(1898年竣工)

浦賀船渠1号ドックが出来る1年前、別会社のドックとして建造されたドック。1905年に浦賀船渠(株)とひとつになり、2号ドックとして使用されてきた。時代によって改造された1号ドックより竣工当時に近い姿を残し、現在はゲートが開けられ海水が入り込んでいる。現在はリゾートマンションのマリーナ(ヨット置き場)の一部として使用されている。



▲マリーナ建設前の川間ドック

## 見学

今回のイベントでは、年間のイベントでも1回だけ、冬に実施しているドックの「底」に下りることのできる見学会を実施しました。底は地面が滑りやすいため見学エリアを制限しますが、今回はいつもよりエリアを広げ、盤木(ドックに入る船を乗せるための「枕」)に近づけるようになりました。これにより盤木を間近に見ることができ大変好評を博したため、今後のイベントにおいても来場者のみなさんにより浦賀ドックを知ってもらえるような見学会を開けるよう検討していきます。

(写真上…底を見学する様子 写真下…盤木周囲を歩けるようになりました)



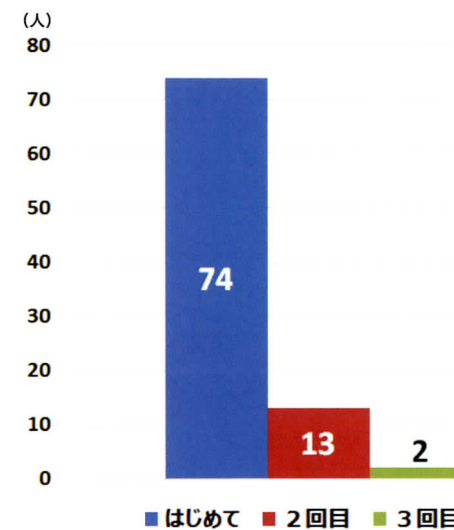
## お知らせ…見学会での「ヘルメット」着用について

浦賀ドックのイベントでは、2019年以降のすべての見学会で原則ヘルメット着用をお願いすることになりました。ヘルメットは当日現地にて貸出いたしますので、被りやすい髪型でご参加をお願いいたします。  
※ヘルメット用の「使い捨てインナーキャップ」もお配りしておりますので、安心して着用いただけます。

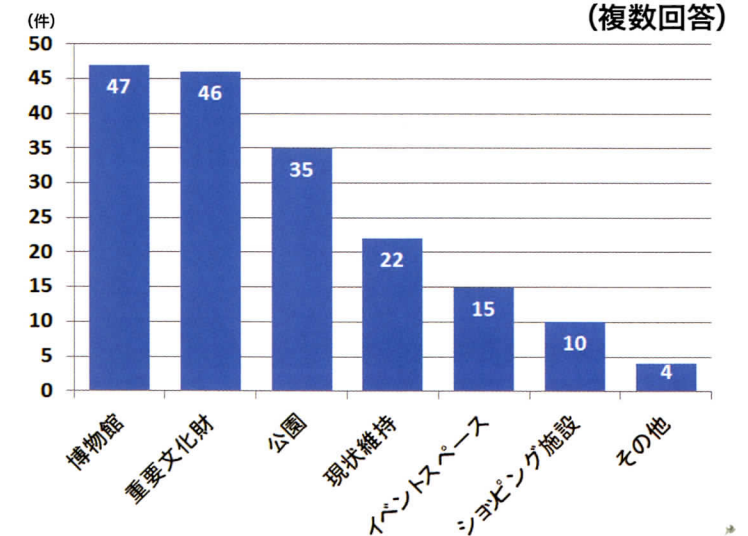
安全で楽しい見学のために、ご協力をお願いいたします。

## アンケート(参加者100名中、89人から回答)

Q. イベントへの参加は何回目ですか？



Q. 将来、浦賀ドックをどのように活用してほしいですか？(複数回答)



今回は来場者のみなさんから大変多くのアンケート回答を頂くことができました。回答を見ると、レンガドック活用イベントに初めて来た人が全体の8割近くと、新たにドックへ興味を持ってくれた人が多くいたことが分かりました。また2018年8月開催のライトアップイベントと同様に(かわら版14号参照)ドックの活用方法に関するアイデアを募ったところ、博物館、文化財及び公園として活用してほしいといった意見が多く、レンガドックの歴史に対する興味関心が依然高いことが分かりました。

# 昔、ドックで働いていた方へインタビュー

前号の「電気艦装」で民間船は概ね完成ですが、浦賀では自衛艦などの特殊な船もたくさん造っていました。今回は浦賀ならではの部門ともいえる「兵装」について、富田淳二さん、明田正輝さんのお二人にお話を伺いました。

— 兵装課は自衛艦に関係のある仕事だと思えますが、実際にどのようなことをされていたのですか？

明田 主に武器の取付けをします。主砲やミサイル・魚雷の発射装置といった様々な武器と、それらを制御する管制装置などです。新しい種類の武器はアメリカ発のものが多いので、自衛艦に初めて積むときはアメリカへ勉強しに行きました。

— 既存艦の修理もされたのですか？

明田 はい。オーバーホール（分解整備）をするときは武器を船から降ろし、何万という部品に分解して整備します。新造と修理のどちらもやりますから、古い武器のことまで何でも知っておかなければなりません。

— とても忙しい部署なのですね。

明田 年度末には修理する自衛艦がまとまって入ってくるので大変です。ただ夏ごろになると、商船も扱うほかの課と違い仕事が減ってくるので、その間は年度が日本とずれている米軍基地の応援によく行きました。

— お二人は兵装に従事されていた時代が異なりますが、お仕事の内容に違いはあるのでしょうか？

明田 兵装課は、電機艦装と機関艦装の仕事を一緒にしたようなもので、元はそれぞれが兵装の各部門を分担していました。ひと口に武器と言っても、機械的な部分と電気的な部分がありましたから。

富田 まさに私の頃は電機が兵装も扱っていました。当時は第二次世界大戦中にアメリカが使用した駆逐艦が払い下げられ、その試運転などをしていました。大仕事なので、一度仕事に行くとも1週間は出たまま、ということもありました。それから旧日本軍の駆逐艦を再生した「わかば」という護衛艦では、新しいレーダーを取り替える試験もしました。

— 兵装の難しい所は？

明田 武器を艦に据え付ける座面

を水平にすることです。せっかく制御装置側がちゃんと狙っても、肝心の武器が変な角度を向いたら正確に動きません。そのため座面の傾きは水平に対し3分（1分は1度の60分の1）以内にするよう定められていて、座面を取り付けてから細かく削ることで調整します。このルールは今も踏襲されています。

— とても厳しいのですね。

富田 さらに海上に浮かぶ船体の鉄板は太陽光で伸び縮みするので、それを計算して作業しなければいけませんでした。

明田 調整試験も日が当たらない夜にならないと正確にできませんからね。

— 印象に残っている船はありますか？

明田 試験艦の「あすか」ですね。先ほど話題に上がった「わかば」で試験されたものが基になる新しいレーダーを取り付けたのですが、今までのものと違い、座面をやや垂直にしなければならなかったのです。今まで水平の座面しか経験したことがなかったので、縦に削るにはどうすればいいかと大変悩みました。

富田 「わかば」の工事を行ったのは昭和40年代の初め頃なので、それから数十年をかけて研究されてきた賜物が「あすか」に取り付けられるという、このつながりは凄いいことだと思います。

— お仕事の中で大変だったことはありますか？

富田 難しいというより仕事の回数が多くて大変だったのは、沖修理ですね。これは浦賀ドックに来た船の修理ではなく、横須賀港などに停泊している船にこちらが赴いて真空管の交換などをするものです。昔は職場まで下駄を履いて出勤したのですが、どこかで船の機材が壊れたら急に呼ばれて下駄のまま行くしかない、なんてこともありました。現地に行くと大



富田淳二さん（左）、明田正輝さん（右）

概スリッパを用意してくれたし、船で食事も取らせてくれたので嬉しかったですね。

明田 金曜になると船が帰ってきて、家に帰ろうと思ったあたりで呼ばれることもありました。この手の船は次の月曜には出ますので、そうすると仕事が土日に食い込むこともよくありました。

— 修理の仕事では、外へ出向くことが多かったのですか？

富田 はい。特に兵装の場合は修理が多いので、よく行っていました。仕事の中でもかなりの割合をこれが占めていたと思います。

明田 修理の仕事は守備範囲が広く、横須賀に来る船だけでなく大湊（青森県）に停まっている船を直すために現地まで出向いた仕事もありました。浦賀で修理した船の具合が悪くなると、現地に造船所がなかったのこちらが行くことになったのです。夜行に乗って行き、翌朝から仕事をしました。

— 浦賀での仕事はいかがでしたか？

明田 もう少し続けたいと思いました。自衛艦の大型化が進み、浦賀湾では船を回せなくなったことで造れなくなったのは少し残念に思いますね。

富田 浦賀で造る船は乗組員の評判が高かったですね。同型艦を色々な会社が作りますから、その中で乗組員から「浦賀で造ってくれるといい」と言われるのはありがたいです。

明田 同型艦の建造では、細かい設計図ではなく「要領図」を基にします。「この機械をどのような順に並べる」と言った指示だけが書かれていて、例えばその機械を壁にどのくらい寄せるか、といった細かい部分は造船所に任されていました。浦賀は性能を落とさず、乗組員に喜ばれる船を造ることが得意でしたから。

連携は新しいステップへ！

# 浦賀小学校の授業協力

見学 3年生…10月24日(水) 6年生…8月30日(木)  
授業 3年生…10月31日(水)  
6年生…11月 5日(月)・12月12日(水)

地元小学校に通う児童のみなさんに浦賀ドックについて知ってもらうため、委員会では浦賀小学校の3年生に向けた工作体験やレンガドックの見学会などを行っています。2018年には現在の3年生に向けた見学会に加え、2016年当時の3年生が6年生になり、まちづくりに関する取り組みを授業で行っていることから、より深く浦賀と造船所の関係性について学んでもらうため、数多くの授業協力を行いました。



▲6年1組の中間報告会。班に分かれて浦賀の魅力をアピールする方法を提案する。



▲6年2組の講義。郷土史家の山本詔一さんに、仕事の魅力についても質問した。

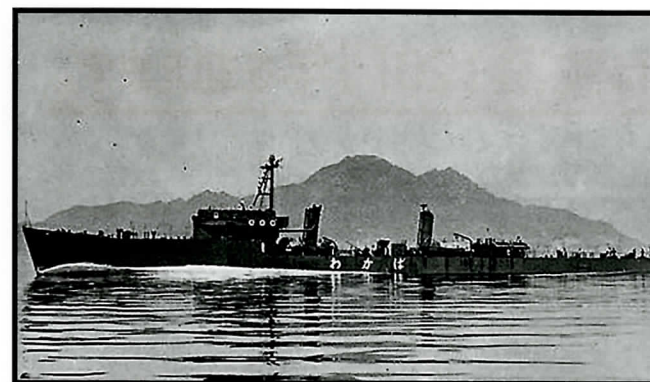


▲3年生の見学会(全クラス合同)。ドック見学を行った。現在の6年生はこのときに初めてドッグをテーマにした学習を始めた。

## 浦賀奉行所まつり(2019年1月27日(日)開催)のパネル展示

奉行所開設300周年を目前にした今年の浦賀奉行所まつりは、地元小学校との連携により多くの企画が開催されました。企画のひとつとして、浦賀小学校6年生のみなさんが浦賀の町の未来について考えてまとめた資料のポスターセッションが展示されました。この展示にはレンガドック活用イベントとの連携授業を受けて作られた資料も多く使われました。

※ポスターセッション資料は、今後のレンガドック活用イベントでも順次展示していく予定です。ぜひご覧ください。



▲護衛艦わかば…元は旧日本軍の駆逐艦「梨」終戦間際に沈没したが、後に引き上げられて護衛艦として再就役するという数奇な運命を辿った。(出典 海上自衛隊)

— 浦賀ではクラブ活動も盛んだったと聞いたことがあります。お二人も何かされていたのでしょうか？

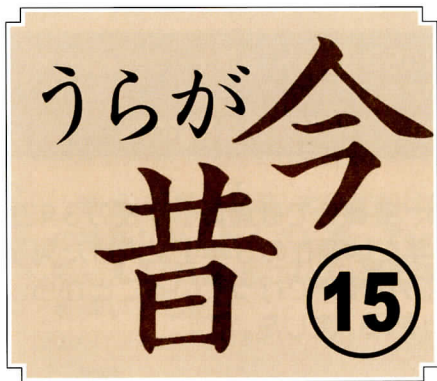
明田 盛んでしたね。私はヨットクラブに入っていました。

富田 私は以前にインタビューを受けた渡辺秀郎さんと同じで詩吟をやっていました。ほかにもバレーをやっている同僚もいて、とても強かったですね。ヨットも強く、強豪クラブ揃いでした。

明田 実業団の全国大会によく出ていましたから。実はヨットをやっている会社はあまり多くないのです。うちの場合は湾の入り口に艇庫があって、クラブ活動として盛んだったお陰もあって強いチームになれたのでしょうかね。

## 浦賀町と久里浜の併合問題

郷土史家 山本 詔一



明治22年(1899年)4月1日、市制、町村制が施行され、現在の横須賀市エリアは横須賀町、浦賀町、浦郷村、豊島村、衣笠村、久里浜村、北下浦村、長井村、中西浦村、武山村の2町8村となった。

このとき、浦賀町は天津、走水、鴨居の3村と浦賀町が合併して新たな浦賀町となり、町会議員選挙が行われ24名が選出された。その後町議会は初代の浦賀町長に三次六兵衛を選んだ。

明治42年(1909年)、三浦郡役所が主導する形で浦賀町と久里浜村の合併が提案された。浦賀町は久里浜村の合併に関してはまったくの受け身で、久里浜村として合併に依存が無ければいつでも受け入れられる態勢で臨んでいた。

明治44年(1911年)1月、郡役所は「両町村の有志はしばしば協議をした結果、地勢状、歴史上両町村の合併の機は熟したと判断し、

紀元節(現在の建国記念の日)である2月11日に合併の祝典をする」と発表した。

この郡役所の発表には受け身であった浦賀町議会も意義を唱え、もう少し慎重に調査をする時間が必要であるとして、2月11日の合併祝典の延期を申し入れた。

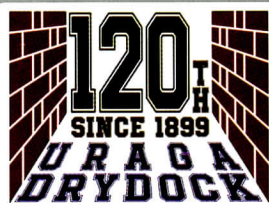
久里浜村の事態はより深刻で、合併の検討について村会議員から村人に何も話がないまま発表を迎えたのである。一村の存廃に関する重大なことであるのに、村人は寝耳に水の状態であった。このことは村人を侮辱する行為であるとして、2月13日と15日に緊急村民大会が開かれた。ここで合併の白紙撤回を村議会に求め、もしこれが受け入れられないのであれば、郡役所はもとより、県令(県知事)、参事会にも訴え出ることが決議された。

また、16日に村会議員の数名が浦賀町の町長と会うことになっていることが分かると、これも実力をもってしてでも阻止しようとしている。さらに17日には、三浦郡長が久里浜村役場に仲介の労をと

るために出向いた。その結果、浦賀・久里浜の合併問題は一時延期となった。

しかし、事態はこれで終結ではなかった。久里浜村の財政状況からみて、やはり浦賀町との合併が最善策であるという人々がこの年の8月に再び動き出し、今度は村役場において村長が村会議員と各字の代表者を集め、合併に関して各員の賛同を求める会議を開いた。しかし、ここでも絶対反対の意見が出され、これ以上の議論ができないことが分かった村長と村会議長が辞表を提出してしまった。またしても合併の件は郡役所へ預けられる形となり、郡長は浦賀・久里浜の合併は見送る決断をした。

久里浜村は昭和12年(1937年)4月、田浦町、衣笠村に続いて横須賀市との合併を選び、太平洋戦争後、浦賀町が横須賀市から独立運動を起こしたときにも、浦賀町の誘いには載らず、横須賀市に留まる態度を強く出した。



### 2019年、レンガドックは生誕120周年を迎えます。

1899年に建造された浦賀工場1号ドック(レンガドック)は、今年で建造から120年の節目を迎えます。2019年のレンガドック活用イベントでは、記念イベントを多数開催予定!今後のイベント情報にご注目ください。

#### 次回イベント…咸臨丸フェスティバルに参画

2019年5月25日(土)

- ワンデーミュージアム【入場自由】10時~16時、レンガドック活用センターにて
- 産業遺産見学会【当日受付】①13時 ②14時30分、レンガドック先端集合(開始5分前より受付)
- 内容は予告なく変更する場合があります。 ● 詳細は広報よこすか5月号及び市のHP等をご覧ください。

本誌に  
関する  
お問合せ

レンガドック活用イベント実行委員会事務局(横須賀市都市部市街地整備推進課内)  
〒238-8550 横須賀市小川町11 / 電話 046-822-8526 / FAX 046-826-0420 / E-mail ur-ci@city.yokosuka.kanagawa.jp

発行: レンガドック活用イベント実行委員会